

## おきにいりのものをよく見て、おしらせするぶんしょうをかこう

中心学習材 「しらせたいな、見せたいな」(光村図書1年下)

〈育てたい主となる能力〉

- ◎経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書くこととする題材に必要な事柄を集めること。 (書ア)
- ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 (書ウ)

〈単元を貫く言語活動〉

- ◎観察したことをお知らせする文章を書く。

### 1 子どもと単元について

子どもたちは、これまでに「書くこと」の学習として、「すきなもの、なあに」の学習では、自分の好きな物とその理由を2文で書く活動を行い、「かけるようになった」の学習では、体験したことを思い出し、3文程度の文章を書く活動を行った。また、生活科の学習では、あさがおの観察をし、葉や花などの様子を観察して気付いたことを絵や文で表す活動を行っている。これらの学習を通して、身近なことや体験したことを、語と語のつながりに気を付けて2文から3文で書き表すことができている。また、文章に書いて相手に伝える喜びや読んでもらうことの喜びを感じてきている。日常においては、家庭学習で、自分が経験したことを日記に書いて知らせる活動を通し、事柄の順序に気を付けて書くことができるようになってきている。

中心学習材「しらせたいな、見せたいな」は、学校で見付けたものや生活科で触れ合った生き物の中から、家の人に知らせたいお気に入りのものを選び、よく観察し、お知らせする文章を書くという内容で構成されている。この時期の子どもたちは、学校生活の様々な体験や発見をととも楽しく感じ、そのことを誰かに伝えたいという思いにあふれている。口頭で伝えることは日常的に行っているが、お気に入りのものをよく観察して、文章に書くことで、「書いて知らせる」ことができる喜びや、自分が書いたものを読んで相手が理解し、「見てみたいな」と思ってくれる喜びを体験できる学習材である。

指導に当たっては、次の三つを大切にす。一つ目は、意欲をもって最後まで活動を進めるためにも「知らせたいな」と思う題材に出会わせることである。そのために、生活科の「いきものなかよし」の学習と関連させて、「うさぎ」を共通題材にし、教室で飼っている生き物を自由題材とする。生活科で触れ合った親しみ深い生き物を題材にすることで、意欲をもち続けて文章を書くことができると考える。二つ目は、一人一人が相手に伝えるために必要な事柄を集めることができるようにすることである。そのために、観察の視点として、「色」「形」「大きさ」「触りごころ」「動き」など具体的に与え、五感を使って知らせたいものの様子がとらえられるようにする。さらに、1学期からみんなの様子を表す語彙を集めたものを参考にし、観察したことを「見つけたよカード」に記入できるようにする。三つ目は、観察したことを文章にするステップを身に付けることができるようにすることである。そのために、「見つけたよカード」から文章にするまでの間に、「短冊カード」を作るという段階を入れて、取材(見つけたよカード)→文作り(短冊カード)→文章作り(お知らせする文章)の三つのステップで文章を書くことができるようにする。中心学習材、共通題材で、三つのステップで書くことを学んだことを生かして、自由題材で自分が知らせたいものを書くことができるようにしたい。

### 2 単元の指導目標

○お気に入りのものをよく観察し、友達や家の人に様子を知らせる文章を書こうとしている。 【関心・意欲・態度】

◎知らせたいことについて必要な事柄をよく観察して、集めることができる。 【書くこと ア】

◎気付いたことを基に語と語や文と文との続き方に注意し、様子を知らせる文や文章を書くことができる。

【書くこと ウ】

○句読点や文字を文の中で正しく使うことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(オ)】

### 3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○身の回りからお気に入りのものを見付けて、よく観察し、様子を知らせる文章を書こうとしている。	◎観察の視点に沿って知らせたいものの様子をよく観察し、気付いたことを単語や簡単な文で書いている。 ◎気付いたことを基に、語と語や文と文との続き方に注意しながらお知らせする文章を書いている。	○句読点や文字を文の中で正しく使っている。

4 学習指導計画(全8時間)

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な活用】

生活科  
生き物と触れ合う。

第1次  
単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。(1時間)

- ① 教室で飼っている生き物のことを家の人に知らせるために、よく見て分かりやすい文章を書くという学習の見通しをもつ。

<評価>

- ① 学習の見通しをもち、今までお世話してきた生き物について、家の人に書いて知らせようとしている。  
《態度・発言》

第2次  
観察の仕方や様子を知らせる文章の書き方を理解する。(4時間)

- ② 中心学習材を基に、観察の視点と「見つけたよカード」の書き方やメモしたことを1文に書く方法を学ぶ。
- ③ 共通題材を「色」「形」「大きさ」などの観察の視点に沿ってよく観察し、気付いたことを「見つけたよカード」に書く。
- ④ 「見つけたよカード」に書いたことを基に、「短冊カード」に一つの事柄につき1文で表す。(本時)
- ⑤ 短冊カードの文を基に、順番を考えて文章にする。

<評価>

- ② 中心学習材の「見つけたよカード」の内容から、観察の視点とカードの記入の仕方に気付き、それを1文に書く方法を理解している。  
《発言・カード》
- ③ 共通題材を前時で学んだ観察の視点に沿ってよく観察し、具体的な言葉で「見つけたよカード」に書いている。  
《カード》
- ④ 「見つけたよカード」に書いたことを基に、主述に気を付けて1文に書いている。  
《カード》
- ⑤ 書く順番を考えて短冊カードを並べ替えて、文章を書いている。  
《原稿用紙》

中心学習材で学んだ観察の仕方や文の書き方の知識・技能を生かして、共通題材の文章を書く。

第3次  
知らせたいものをよく観察し、相手に知らせる文章を書く。(3時間)

- ⑥ 自由題材で知らせたいものを観察の視点に沿ってよく観察し、気付いたことを「見つけたよカード」に書く。
- ⑦ 「見つけたよカード」に書いたことを基に「短冊カード」に文を書き、「短冊カード」の順番を考え、文章を書く。
- ⑧ 「お気に入りのもの発表会」をし、感想を交流する。

<評価>

- ⑥ 自由題材を視点に沿ってよく観察し、気付いたことをカードに書いている。  
《カード》
- ⑦ 短冊カードに主語に気を付けて文を書き、短冊カードの順番を考え、文章を書いている。  
《カード・原稿用紙》
- ⑧ 友達の発表を読み合っ、よいところを見つけようとしている。  
《感想カード・態度》

第2次の共通題材で学んだ「見つけたよカード」「短冊カード」を基に文章を書く知識・技能を生かして、自分が知らせたいものの文章を書く。

課外  
書いた文章を家の人に読んでもらい、感想をもらう。

【国語科活用場面】

○季節の様子を表す言葉を集めて、短い文を書く。

「あつまれ、ふゆのことば」

【他教科・日常活用場面】

○身近な場所や学校、自然などを観察し、必要な事柄を集めてカードに書きまとめる。(生活科)

## 5 本時の指導

### (1) ねらい

「見つけたよカード」に様子を表す言葉を書いたことを基に、「短冊カード」に、一つの事柄を1文に書くことができる。

### (2) 基礎的・基本的な知識・技能を活用する言語活動

前時までの学習で、中心学習材を基に、題材を観察する際の具体的な視点や「見つけたよカード」への記入の仕方、一つの事柄を1文に書くことなどを学んだ。本時では、その知識・技能を生かし、共通題材を観察し「見つけたよカード」に書いたことを「短冊カード」に1文で書く。

### (3) 展開

学習活動	学習内容	指導の手立てと評価
1 本時の学習課題を確認する。 「見つけたよカード」にかいたことを ぶんにしよう。		
2 学習課題を解決する。 (1)「短冊カードの書き方のこつ」を振り返る。 (2) 教師が共通学習材で書いた例(モデル)を示し、毛の色について、みんなで見ている。 (3) 主語と述語を意識し、それぞれ「短冊カード」に書く。 (4) ペアで短冊カードを読み合い、よさを学び合う。 (5) 全体で書いたことを交流する。	<p><b>【短冊カードの書き方のこつ】</b></p> <p>「なに(どこ)は、～です。」とメモのこたばをぶんにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの見つけたよカードのこたばが一つのぶんになるとわかりやすい。</li> <li>・おなじところを見たときは、二つ・三つの見つけたよカードのこたばが一つのぶんになることもある。</li> <li>・一つの見つけたよカードのこたばがくわしくなるとぶんになることもある。</li> </ul> <p><b>【文をかくときのきまり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なに(どこ)はのあとに、てん(,)をつける。</li> <li>・ぶんのおわりには、まる(.)をつける。</li> </ul> <p>○なに(どこ)は、            ・けは、            ・めは、            ・はなは、            ・えさをたべるときは(やると)、            ○～です。            ・ようすをあらわすこたば</p>	<p>○中心学習材の学習を想起させ、一文にする方法を確認できるようにする。</p> <p>○教師の例(モデル)を示し、一緒に全員で書き方を確かめることで、書き方を理解し、自分で書くことができるようにする。</p> <p>○具体的に主語を提示し、書き方に悩んだ際、その主語を見て、書き進められるようにする。</p> <p>○早く終わった子は、「短冊カード」を読み返し、間違いがないかチェックをし、ペアで紹介し合う。</p> <p>○短冊カードの書き方のこつや文を書く時のきまりに沿って、友達の文のよさを確かめることにより、自分の文も振り返ることができるようにする。</p> <p>○実物投影機を使い、代表児童の短冊カードを紹介し、自分の短冊カードができているか確認できるようにする。</p> <p>〈評価〉「見つけたよカード」に書いたことを基に、一つの事柄を一文で「短冊カード」に書いている。【カード】</p>
3 本時の学習を振り返る。 (1) 自己評価する。 4 次時の学習内容を確認する。		<p>○「見つけたよカード」に書いたことを「～は、～です。」という一文で短冊カードに書くことができたか、文字の間違いやてん(,)やまる(.)を忘れずに文を書くことができたかを記号で自己評価させる。</p> <p>○「短冊カード」の順番を考え、文章に書くことを知らせる。</p>